

東京大学（文科） 2019 年 第 3 問

正八角形の頂点を反時計回りに A, B, C, D, E, F, G, H とする。また、投げたとき表裏の出る確率がそれぞれ $\frac{1}{2}$ のコインがある。

点 P が最初に点 A にある。次の操作を 10 回繰り返す。

操作： コインを投げ、表が出れば点 P を反時計回りに隣接する頂点に移動させ、裏が出れば点 P を時計回りに隣接する頂点に移動させる。

例えば、点 P が点 H にある状態で、投げたコインの表が出れば点 A に移動させ、裏が出れば点 G に移動させる。

以下の事象を考える。

事象 S ： 操作を 10 回行った後に点 P が点 A にある。

事象 T ： 1 回目から 10 回目の操作によって、点 P は少なくとも 1 回、点 F に移動する。

- (1) 事象 S が起こる確率を求めよ。
- (2) 事象 S と事象 T がともに起こる確率を求めよ。